

東南アジアの「今」を映す、短編ドキュメンタリー上映会 「Visual Documentary Project 2016」 12月15日(木)京都、17日(土)東京開催

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)アジアセンターは、京都大学東南アジア研究所と共に、東南アジアと日本の映像作家が制作する短編ドキュメンタリー作品を募集し、上映を通じて東南アジア地域の現状を捉え、諸問題の解決へとつなげる試みとして、「Visual Documentary Project」を実施しています。このたび2016年度入選4作品の決定にあわせ、入選作品の監督・関係者8名を日本に招き、東京と京都の2会場で上映会を開催します。



2016年は「日常生活のポリティクス」と題し、東南アジアの日常生活に見られる様々な政治的な表現をテーマに東南アジアと日本の12か国から作品を募集。結果、各国から様々な切り口と視点でテーマに迫る、優れた75作品が集まりました。上映作品の選考には、カンヌ国際映画祭、「ある視点部門」でグランプリを受賞するなど、ドキュメンタリー映画を中心に国際的に高い評価を受けるカンボジアの巨匠リティ・パン監督も参加し、厳正な審査の結果、ミャンマーとマレーシアを舞台にした4作品が選ばれました。

上映会では、東南アジアの映画界に新たな風を吹きこむ監督、そして関係者たちと、日本映画大学教授の石坂健治氏、山形国際ドキュメンタリー映画祭・東京事務局の若井真木子氏を交えてのトークディスカッションも予定。制作動機や作品の背景に迫ります。

※お忙しいところ誠に恐縮ではございますが、ぜひ貴媒体でのご紹介ならびに当日のご取材についてご検討下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

■上映会 概要

<京都会場> (入場無料・申込み不要・先着順入場)

- 【日程】 2016年12月15日(木)13時30分～18時(開場13時) ※途中入退場可
- 【会場】 京都大学東南アジア研究所 稲盛財団記念館3階 大会議室 (京都市左京区吉田下阿達町46)
- 【言語】 日本語、英語 (通訳・字幕あり)
- 【登壇者】 入選4作品の監督・関係者
- 【コメンテーター】 石坂健治(日本映画大学教授)、若井真木子(山形国際ドキュメンタリー映画祭・東京事務局)
- 【主催】 京都大学東南アジア研究所 (<http://sea-sh.cseas.kyoto-u.ac.jp/>)
- 【共催】 国際交流基金アジアセンター (<http://jfac.jp/>)

<東京会場> (入場無料・申込み優先)

- 【日程】 2016年12月17日(土)15時30分～20時(開場15時) ※途中入退場可
- 【会場】 東京ウィメンズプラザ (東京都渋谷区神宮前5-53-67)
- 【申込方法】 ①お名前、②ご所属、③ご連絡先を明記のうえ、件名を「VDP2016 東京上映会参加」として、jfac.vdp.info@jpf.go.jp まで、メールにてお申込み下さい。(12月15日締切)
- 【言語】 日本語、英語(通訳・字幕あり)
- 【登壇者】 入選4作品の監督・関係者
- 【コメンテーター】 石坂健治(日本映画大学教授)、若井真木子(山形国際ドキュメンタリー映画祭・東京事務局)
- 【主催】 国際交流基金アジアセンター (<http://jfac.jp/>)
- 【共催】 京都大学東南アジア研究所 【協力】 アジア映画研究会

※上映会の詳細は、国際交流基金アジアセンターウェブサイト (<http://jfac.jp/culture/events/visual-documentary-project-16121517/>) をご覧ください。

【上映作品】

■新政権誕生で劇的に変わりゆく国ミャンマーの今を捉える3作品



Mother & Son 邦題「母と息子」(17分) 撮影地:ミャンマー
監督: Thwe Myo Nyunt 編集: Zaw Win Htwe

[ストーリー] 1988年、ミャンマーの民主化運動に参加した息子をもつ、ひとりの母親。より開かれた社会のために闘い、彼らがはらった様々な犠牲を思い出す。彼女の体験は、ミャンマーの多くの家族の苦悩を反映するとともに、政治活動が犠牲を伴うものだという事を私たちに知らしめる。

60 Days 邦題「60日」(31分) 撮影地:ミャンマー
監督: Htut Ye Kyaw, Pyay Maw Thein, Sett Paing Aung

[ストーリー] ミャンマーの教育改革法案をめぐる学生対政府の対立のさなか、60日間の休戦期間が2014年11月17日に提示された。ミャンマーの教育の歴史において、教育改革にむけて重要な一歩となったこの運動に関わった学生たちのインタビューを含みながら探求した作品。



Vein 邦題「鉱脈」(31分) 撮影地:ミャンマー
監督: Htet Aung San, KO JET, Phyo Zayar Kyaw

[ストーリー] 採掘所を舞台に、ヒスイの採掘を行う労働者が直面する危険に焦点を当て、ミャンマーのあまり語られないことのない現実を描く。

■気候変動によって危険にさらされているマレーシアの部族を映した1作品

Women of the Forest 邦題「森に生きる女たち」(15分)
撮影地:マレーシア

監督: Inshallah P. Montero 研究者: Sunitha Bisan

[ストーリー] マレーシア、サラワク州のボルネオ熱帯雨林は、産業・土地開発のための伐採により消えつつある。カヤン人とプナン人の女性たちは、この人工的な破壊とそれに伴う気候変動の影響により危険にさらされている。気候変動についての対策が、彼女らの性と生殖に関する健康と権利をどのように守れるかを対話から模索する。



<国際交流基金アジアセンターとは> <http://www.jfac.jp>

独立行政法人国際交流基金(ジャパンファウンデーション)は、全世界を対象に総合的に国際文化交流事業を実施する日本で唯一の専門機関です。アジアセンターは2014年4月に設置され、ASEAN諸国を中心としたアジアの人々との双方向の交流事業を実施・支援しています。日本語教育、芸術・文化、スポーツ、市民交流、知的交流等さまざまな分野での交流や協働を通して、アジアにともに生きる隣人としての共感や共生の意識を育むことを目指しています。

●主催者・本事業に関するお問い合わせ: 国際交流基金 アジアセンター文化事業第1チーム(担当: 滝本、村田)

Tel: 03-5369-6140 / E-mail: jfac_vdp_info@jpf.go.jp

●取材に関するお問い合わせ: コミュニケーションセンター(担当: 伊藤、森)

Tel: 03-5369-6089 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp